

### 編集後記

本号はオリンピックイヤーとなる2020年の第1号となります。この稿を書いている2月末現在、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症は日本国内でもPCR検査陽性者が多数確認されています。日本国内では感染が拡大している状況を受けて、全国で学校が休校されることとなり、多くのイベントや学会会議が中止・延期されています。

この感染症については日々種々の情報が世界中で発信され、それに対する反応も様々なメディアに投稿されていますが、医史学に関連する内容のものも多数見られます。同じくコロナウイルスによる感染症だったSARSやMERSを始めとする、過去の感染症の治療法開発やその対策に言及する記事・発言や1910年代後半のインフルエンザ・パンデミックとの比較も多数目にします。また検疫の歴史に関する言及も多く、西欧諸語で「検疫」を表す語の語源が14世紀の黒死病の時代に遡ることなども取り上げられています。

感染症の流行の早期収束を願うばかりですが、医史学という分野が果たすことのできる役割は決して小さくはないことを再確認いたしました。

(澤井 直)